

令和4年度 第3回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:地域の音楽(芸術)を活用したやまなしのまちづくり

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、文化芸術スペース運営者やアーティストなどの皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和4年11月10日(木) 午後3時00分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 8名

(主な意見等)

- ライブハウスはイベントを継続できる環境を作っていく努力をしている。オンラインライブは、参加の間口を広げた部分はあるが県内アーティストのライブはなかなか見えてくれない。
- オンラインライブは店を知ってもらい県外から訪れてもらうというプラス面もある。
- コロナ前は、周辺の飲食店とも連携して地域に一定の波及効果もあった。県内のアーティストの動員は厳しくて、チケット単価にも跳ね返るため人数制限の緩和をお願いしたい。
- 補助金などの支援についても「使えるように」一緒に考え相談にのってもらいたい。補助金などアーティスト支援の情報発信についてはライブハウスも協力できるのではないかな。
- アーティスト支援の補助については回数制限等の改善を検討してもらいたい。また山梨の音楽シーンを守るためにも地元アーティストを応援する制度が欲しい。
- 音楽教室の生徒数もコロナ前の半分かくらいになってしまっている。イベントを控える雰囲気はまだあるが、支援も活用しながら野外イベントフェスなどを開催したい。
- 外国人向けに和楽器演奏を披露する場所を探しており、県からの支援があればと思う。また芸術文化協会内にも軽音楽などの部門があっても良いかと思う。
- ヤマナシクリエイターズリンクには山梨の音楽シーンに精通した方の参画が必要。
- コロナ過でライブハウスは存続の危機にある。アーティスト支援の部分でモニュメント的になるようなイベントが一つあるとありがたい。

知事(県)の主な発言

- 文化で楽しくまちづくりができないかと考えており「文化立県」を目指している。学校教育の延長線上ではない「文化・芸術」に様々な人が係わりながら盛り上がり行けたらと思う。
- ウィズコロナ社会におけるライブハウスの段階的な制限緩和については検討したい。
- 補助制度などは現場の声をしっかり聞いて使い勝手のよさにつなげたい。
- 行政と皆様の交流の場がまず重要と考える。「場の確保」への支援と「活動するアーティスト」への支援やクリエイターズリンクのあり方を含め、本日のいくつかの課題を整理させて頂き、あらためて相談をさせて頂きたい。

